

牛久：学校周辺に見る自然

第3号 牛久自然観察の森

2020年4月4日発行

＜ 春のおとずの訪れ ～③草の花＞

皆さん、こんにちは。今回は、春の牛久自然観察の森で見られた草の花の紹介です。



落葉樹の明るい林に見られるアオイスミレ（上2枚）と、明るい林や草原に見られるタチツボスミレ（下2枚）。

ネイチャーセンターや観察舎の近くで、たくさんのスミレが咲いていました。その大部分はタチツボスミレで、市内や周辺では一番よく見かけるスミレです。天気がいいと、ハナアブやハチ、チョウのなかまが蜜を吸っているのを見つけられるかもしれません。

タチツボスミレと同じような場所に咲くのでまちがえることもあります。よく見ると花の柄が短く毛があるなどの違いもあるアオイスミレも咲いていました。

また数は多くありませんが、濃い紫のスミレも咲いていました。ニオイタチツボスミレです。タチツボスミレやアオイスミレは明るくやや湿った落葉樹林や草原に生えますが、ニオイタチツボスミレは明るくやや乾いた草原に見られます。

明るくやや乾いた草原に見られる、ニオイタチツボスミレ。



日当たりのよい乾燥した草原に見られるアカネスミレ（上2枚）と、木陰のある人家周辺に多いコスミレ（下2枚）。

日当たりのよい、乾燥したところに育つスミレもあります。両わきの花びらのもとの方に毛がある、アカネスミレです。そして、木陰のある人家周辺で見られるコスミレも咲いていました。スミレといっても、種類によって生育する場所の環境には少しずつ違いがありますね。生物については、体のつくりの特徴だけでなく、周りの環境なども記録しておくとうよいでしょう。



シソ科のなかまヒメオドリコソウ（左）と、カキドオシ（右）。花の先が唇のように上下に分かれ、茎が四角い。

こちらにも、紫の花。ヒメオドリコソウもカキドオシもシソ科のなかまで、日当たりのよいところに生えます。シソ科のなかまは筒状の先が唇のように上下に分かれた花の形も特徴ありますが、どれも茎が四角く葉をもむと独特のにおいがあるものが多いです。校庭でもよく見られるホトケノザや、花壇に植えるサルビアなどもシソ科のなかま。料理などに使うハーブにもシソ科が多いですよ。



春の2ヶ月ほどしか、^{すがた}姿を見せないカタクリ。



カタクリは春にだけ^{すがた}姿を^{あらわ}現し、毎年2ヶ月程の短い期間に少しずつ^{えいよう}栄養をため、発芽後8年目くらいにやっと花を咲かせます。早春に花を咲かせ、5月頃実をつけると地上部は枯れてしまいます。

ニリンソウも早春の花で、カタクリ同様、他の草が茂るころには地上部が枯れ^{すがた}姿が見えなくなるのでスプリング・エフェメラル(春の妖精)などとよばれます。

早春の花、ニリンソウ。

その他には、ハコベやハナニラ、アブラナなどの花も見られました。これから春が進むにつれ、いろいろな花が次々と咲いていくことでしょう。

【理科支援員：宮内】



^せ背が低く、他の高い草が生えないところに育つハコベ(左)。^は葉をもむと^{にお}ニラの匂いがするハナニラ(中)とアブラナ(右)。